

監事 松谷美和子先生を偲んで

前理事長 亀井智子

当学会監事 松谷美和子先生は、2022年6月10日午前3時過ぎにご逝去されました。ここに、これまでの松谷先生のお働きを覚え、衷心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

松谷美和子先生は、聖路加看護学会の庶務担当理事、学術交流委員会委員長を歴任され、2015年9月に第20回聖路加看護学会学術大会長をお務め下さいました。大会テーマは「教育と実践のハーモニー」でした。会長講演では、看護の本質と教育について、また、看護系大学が教員を育成する重要性について、ご講演されました。

2016年度～2019年度は理事長として2期にわたり学会を牽引され、理事長任期満了後の2020年からは、監事をお努めくださいました。

筆者は松谷先生から理事長のバトンを引き継ぎ、松谷先生を手本として進めようとしたが、先生には監事として、重要な局面でいつも適切なお意見を頂くことが多く、本当に支えられるばかりでした。

コロナ禍により、ここ2年間は理事会や総会は全てオンライン開催となり、直接お目にかかる機会をもてなかったことが大変悔やまれます。しかし、Zoom上では、いつもお顔を見せてくださり、学会事業への多くの肯定的なお意見や、しばしば定款を確認されてのご発言を頂き、学会を正しい方向に導いてくださいました。

理事長ご退任の頃、松谷先生からご病気のことを伺いました。先生はそれを受け入れつつも、仕事には凛と対応され、時々ユニークさも交えて、監事の要職にあたられました。時折、体調が思うようにならないと仰り、「その時が来たら、定款に則り、後任を決めていただき、太田監事とともに役割を遂行していただければ幸いまでと思います。」というご意向を2022年4月に伺いました。その後、5月23日に、丁寧な文字の直筆による監事退任届を受け取りました。ご主人の有希雄先生との仲の睦まじさは多くの皆様もご承知のことと思いますが、最期の時は、ご主人・お嬢様と手をつないで旅立たれたとお聞きしました。

2025年に当学会は設立30周年を迎えます。周年事業について、People-Centered Careをテーマに何か催しができないか、ご相談申し上げていましたが、その際にも「この学会にしか行えないことなので、大賛成です」とのお返事をいただき、とても励まされたところでした。

松谷先生には、これまで長く学会をお支えくださいましたことに、改めて心より感謝申し上げます。そして、神様の元で安らかに過ごされることをお祈り申し上げるとともに、当学会を今後も凛と見守っていただきたいと願っております。



ご葬儀にはたくさんの生花が飾られました。

第20回
聖路加看護学会学術大会
THE 20TH ANNUAL CONFERENCE OF THE ST. LUKE'S SOCIETY FOR NURSING RESEARCH

テーマ
教育と実践のハーモニー

日時 2015年9月19日(土)
会場 聖路加国際大学 (東京都中央区)
会長 松谷 美和子 (聖路加国際大学)

プログラム
<大会長講演> 「聖路加国際大学と病院の連携：大学に焦点を合わせて」
松谷美和子 (聖路加国際大学看護学部) 座長：吉田幸子 (聖路加国際大学看護学部)
<特別講演> 「聖路加国際大学と病院の連携：病院に焦点を合わせて」
藤原礼子 (聖路加国際大学) 座長：吉田幸子 (聖路加国際大学看護学部)
<シンポジウム> 「教育と実践のハーモニー」
「北里大学大学院看護部と北里大学看護学部の取り組みを通して」 別府千恵 (北里大学病院) 座長：松谷美和子 (聖路加国際大学看護学部)
「多様な教育機関から実習を受け入れている立場から」 佐々木美代 (川崎市立多摩病院) 座長：松谷美和子 (聖路加国際大学看護学部)
「実習を担う大学教員の立場から」 吉田幸子 (日本赤十字看護大学) 座長：松谷美和子 (聖路加国際大学看護学部)
「臨床教員導入による臨床実習指導の進化について」 渡邊文洋 (昭和大学看護学部) 座長：松谷美和子 (聖路加国際大学看護学部)
座長：松谷美和子 (聖路加国際大学看護学部) / 藤原礼子 (聖路加国際大学)

開催期間 2015年3月初旬～5月11日(月) 正午まで
応募方法は、下記大会ウェブサイトをご参照ください
<http://pizza.umin.ac.jp/slr20/>

第20回聖路加看護学会学術大会事務局
〒104-0044 東京都中央区新富町10-1 聖路加国際大学 看護学研究所4階
Tel/Fax 03-5550-2275(総合)/2295(企画)
e-mail slr20@slr.ac.jp



大会長講演

聖路加看護学会 松谷美和子監事ご功績

- ・庶務担当(2003年～2004年)
- ・学術交流委員会委員長(2013年～2016年)
- ・第20回聖路加看護学会学術大会長
(2015年大会テーマ:教育と実践のハーモニー)
- ・理事長(2期4年:2016～2019年)
- ・監事(2020年～2022年)



松谷美和子先生とゆかりのある方に追悼文を ご寄稿いただきました。

松谷美和子先生と聖路加看護学会での仕事

聖路加看護学会監事/日本赤十字看護大学 特任教授 太田喜久子

聖路加看護学会設立時から会員で学術大会長もやらせていただいたが、最近、つながりが細々とした感じになってきたなと思っていたころ、当時理事長をしておられた松谷美和子先生から将来構想委員会の委員になってほしいと2019年春ごろ連絡を頂いた。美和子さんからのお願いでは断れないと、久しぶりに大学を訪れ、学会の事情もさっぱり分からないのに委員長を引き受けることになってしまった。

将来構想委員会では理事長自らも委員となり、会員数が少しでも増える魅力的な学会となるよう、学術大会での取り組みや学会誌刊行の方法など対応策を検討した。学会名称の議論がなされてきたとのことであったが、学会設立の目的に立ち戻り、聖路加が培ってきた教育や研究の基盤を存分に生かし、本学会ならではの独自性を打ち出していくことが重要であるため、名称は「一般社団法人聖路加看護学会」のままとすることが適切とした。数回の議論を経て8月下旬には委員会報告をまとめることができ、「すばらしい」と松谷先生のお言葉が聞かれて、安堵したのを覚えている。

2020年に学会役員の交代があり、理事長を終えた松谷先生とご一緒に監事を担うことになった。松谷先生には、がん治療と重なり体調辛かったと思うが、理事会や会計監査は、コロナ感染拡大によりオンラインで行われたため、画面でお顔を見ることができ、手を振り合いZOOMに感謝であった。会議での議論では、時に「定款に基づいて判断するように」とはっきりとした語調で発言されることがあり、クラスメートには見せない監事らしい姿に感心したものである。

聖路加看護学会は恩師である常葉恵子先生が創められた学会である。松谷先生はその精神を受け継ぎ、さらに発展させようとさまざまな役割を精力的にこなしてこられたと思う。病がありながら監事を引き受けたのも、学会へのこだわりがあったためだと思う。同時に、皆に迷惑をかけたくないという気持ちも強かったが、2022年5月に行われた会計監査と理事会で任を果たし、その後、自ら引き際を見極められたのは、ほんとうに立派としか言いようがない。美和子さんがつないでくれた学会の仕事、学会がさらに発展していくよう、今期の監事の役割を何とかやり遂げていこうと思う。

松谷美和子先生との思い出

新百合ヶ丘総合病院 副院長 佐藤エキ子

2022年6月13日午前のメールにて「松谷美和子先生永眠のお知らせ」を拝見した時、私のあたまと心は一瞬真っ白になってしまいました。

松谷先生は私たち病院の看護師をいつも優しく導いてくださいました。また、聖路加看護学会の理事会でもご一緒させていただき、松谷先生の間人としての偉大さ・懐の深さをいつも感じておりました。松谷先生への尊敬の念と感謝・思い出、そして悲しみは尽きません。

私が聖路加国際病院の看護部長をしていた頃（2003年～2013年）、松谷先生は聖路加看護大学の学生部部长として私共看護部の「ナースマネジャー会」に参加して下さっていました。ちょうどその頃、日本ではアメリカで開発された「ユニフィケーション・モデル」に対する関心が高まっていた頃でもありましたので、まさにタイミングの良いところで私たち看護部に新しい刺激を与えて下さいました。

ユニフィケーションは、看護実践・教育・研究を臨床側と大学側とで統合・協働するという意味を有する概念であります。松谷先生はそれを「聖路加」で実践して下さいました。例えば、ナースマネジャー会では院内教育、なかでも新人看護師教育に対するアドバイスを下さいました。教育プログラムでは実際にお講義もして下さいました。また、研究においても、当院の看護師と看護大学の先生方との共同で「新人看護師のリアリティショック関連」や「新人看護師への移行プログラム関連」等について、数年にわたって一緒に研究させていただきました。松谷先生は研究のリーダーとして、私たち臨床の看護師に研究の方法や研究のおもしろさを教えて下さり、私たちの研究の発展へと導いて下さったのです。

このように聖路加国際病院看護部は、松谷先生に多岐にわたる指導をしていただきました。また個人的にも松谷先生は私の心の支えとなっていました。

松谷先生、本当に有り難うございました。



聖路加国大際学看護学研究科 小野 若菜子

松谷先生とは、2012年から学術交流委員会で2期、ご一緒させていただきました。私自身、学会の委員会活動経験は浅かったのですが、松谷先生は、会議の運営や書類の管理、また、学会理事会と委員会のつながりなど、丁寧に教えてくださいました。

学術交流集会は、「看護実践で活躍する人」とその推進のために「様々な場で活躍する人」とが対話できる交流会を目指して、毎年、企画されました。松谷先生のアイデアは、幅広く柔軟で、看護実践や教育、看護師のストレス、当時の新しいトピックスとして、看護師の起業などのテーマも取り上げました。松谷先生との委員会活動は、とても楽しく充実した時間でした。

いつも明るく仕事に立ち向かう松谷先生の姿は、とても素敵でした。松谷先生は、ロールモデルとなって、私の中に存在していることを日々実感しています。私は、そんな松谷先生に出会うことができ、とても幸福です。松谷先生からいただいた看護のバトンを、未来に託せるよう、力の限り、社会活動、教育活動を続けていきたいです。

松谷先生、たくさんの力を与えていただき、ありがとうございました！

城西国際大学 看護学部 松尾尚美

松谷先生には、修士課程、博士課程ともに長期に渡りお世話になりました。先生とは、患者中心の看護とは何か、そして、それを実践する看護教育とはどのようなものかについて、よく議論をしました。先生はその度に、熱い想いを語ってくださいました。ある日のこと、お昼過ぎに研究室に伺ったのに、私も先生も話しに夢中になって、気づいたら夜になっていて校舎が閉まってしまった、ということもありました。

研究で行き詰まった時に研究室を訪ねると、先生はいつもエレガントな温かい笑顔を浮かべ、そして軽やかに迎えてくださいました。その度に、私の心は整い、頭も整理されていくのを感じました。私が何を目指しているのか、いつも寄り添って考えてくださる先生でした。いつもエレガントな先生ですが、時にはお茶目な姿もありました。院生とコミカルなダンスを踊る先生の様子に、私は思わず目が点。そのようなお姿も、とても魅力的でした。ある日、先生の研究室にいと、娘さんからのお電話。一瞬にして母の顔になる先生のお姿も素敵でした。

研究者として、教育者として、そして人生の先輩として、松谷先生に出会えたことは、私の人生の宝です。

私は現在、聖路加看護学会の広報委員会を務めています。松谷先生からいただいたご縁でした。委員会活動を通じて、私の世界が広がっていると感じます。

改めて松谷先生への感謝の気持ちでいっぱいです。



松谷先生との出会いは、私が予防医療センターから病棟のナースマネジャー（NM）に戻ってから数年後（2004年）のことです。当時、「看護基礎教育における実習のあり方検討会」という大学の教員と病院の看護師とでよりよい実習について検討をするグループがあり、松谷先生は会の取りまとめのお立場でした。

松谷先生は、看護基礎教育について多くのビジョンをお持ちでした。基礎看護教育に携わっておられた先生と、病棟のNMという立場で、実際に臨床現場で遭遇するであろう場面を盛り込んだ演習プログラムを考えました。看護学生が通常の実習では経験することのない多重課題、時間切迫、業務割り込みといった状況を想定した演習です。その演習がどんどん発展し、「チームチャレンジ」といった学生が夜勤や遅番などを経験する実習として確立され、新人看護師のリアリティショックの軽減にとっても役立っています。そして、2020年のカリキュラム改定で、実習科目「チームチャレンジ」は学士編入コースの必修科目となりました。

現場でのリアリティを追求されるなかで、松谷先生はご研究においても文科省の科研の責任者として、細かく数字を出して結果データに基づいた追求を重ねられていました。いつもいつも前向きで真面目な先生ですが、時々面白いことをおっしゃったり、行動が少女のようなおちゃめなところがあり、そのギャップがとても心地よかったです。松谷先生のそんなお人柄にも助けられて、大学の教員と一緒によりよい実習を考えることが推進されたようにも思います。ふらりと、白衣姿で病棟にやってきては学生の進捗状況を確認し、「学生をお願いしますね」とナースステーションに声をかけてくれる、そんな先生を懐かしく思い出しています。

聖路加国際大学を定年退職された後、他大学でお勤めをされている時に闘病生活をされていると聞き、お手紙を差し上げたら、近況を知らせてくださいました。「神に召される時まで・・・」と書かれていたその文字を見て涙してしまったのでした。どうか安らかにお眠りください。

■ 編集後記 松谷先生にゆかりのある方に追悼文をお願い申し上げますと、どの方も快くお引き受けくださいました。改めて心よりお礼を申し上げます。原稿を拝読し、松谷先生のお人柄とご業績を改めて知る機会となりました。同時に、在りし日の松谷先生を思い出し、私たちにとっても松谷先生を偲ぶ機会になりました。松谷先生の学会への想いを引き継いでいきたいと思えます。（松尾尚美 佐居由美 瀬戸山陽子 大橋久美子 竹森志穂 海老原樹恵 賀数勝太）

2022. 9. 5. 追悼号

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター 追悼号

- ▶ 発行：2022年9月5日
- ▶ 編集：広報委員会
（松尾尚美 佐居由美 瀬戸山陽子 大橋久美子 竹森志穂 海老原樹恵 賀数勝太）
- ▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学内